

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270300599		
法人名	有限会社 源氏		
事業所名	グループホーム 源氏庵		
所在地	静岡県伊豆の国市四日町346-2		
自己評価作成日	令和5年1月6日	評価結果市町村受理日	令和5年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/227/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2270300599-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自然に自分らしく共に生きよう源氏庵」という理念の下に、この地域で暮らされてきた利用者が送られてきた生活を極力維持できるようサポートしていくことに力を入れている。すべてのスタッフがやりがいを感じながら働けるよう、役員が率先してコミュニケーションをとるようにし、結果として勤続10年近いスタッフが多く、開所当時からスタッフも所属している。スタッフが安定していることで、利用者本人、家族に対しての安心感に繋がると考えている。
ホームの食事では地産地消の食材による美味しい食事の提供を心掛けている。ホーム内では看取りを積極的に行っており、医師・看護師との連携を整備している。コロナ禍で面会制限のある中、オンラインの活用や感染予防対策を取った窓越し面会などの対応で、家族との交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、地域の消防団に所属し、地域住民と連携した事業所運営を心掛けている。事業所は、看護師であるケアマネジャーが常勤のため、主治医との医療連携を図りながら、ケアマネジャー2名体制をとり、職員からの情報を基に、きめ細かい介護計画作成に取り組んでいる。常にコミュニケーションを重視して、職員が意見や提案をしやすい職場環境作りを目指し、グループLINEの活用、毎日のミーティングや懇親会、個人面談等、様々な意見聴き取りの場を設けている。令和4年度からはキャリアパス制度を導入して、人事考課を行う際に活用する仕組みを整えている。地産地消の食材による手作りでの美味しい食事を提供し、入浴時間は決めずに対応するなど、利用者の今までの生活を継続する暮らし方の支援を心掛けている。保健所の指導の下、感染防止対策として換気・消毒を徹底し、安全で清潔な環境作りに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示し、連絡ノート・業務連絡ノートを活用して、職員との情報共有を図っている。毎日10時のミーティングを通じて職員間での情報共有を行っている。	管理者・職員は、毎日行う職員ミーティングで業務日誌・連絡ノートにて情報共有を図り、事業所理念に基づく支援を心掛けている。職員間LINEを活用して情報伝達の環境を整えるとともに、懇親会を開催し、職員との意見交換の場を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、外出や来訪機会は制限しているが、近所や庭の散歩を楽しみながら、地域と交流できる機会を維持している。また面会や見学、相談等、地域の人々の受け入れをすることで、地域に馴染んでいる存在でいられるよう心がけている。	コロナ禍の折り、地域との交流制限が続いているが、運営推進会議参加の地域民生委員から積極的な情報収集を心掛け、地域住民との行事再開の準備をしている。近所への散歩や庭での外気浴の機会は、大切な交流の場として継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	役所の設ける合議体の一員として参加することで、事業所の有する経験や情報を、役所を通じて間接的に地域へと還元できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催している。そこで得る意見や質問を業務に生かしている。特に普段介護にそれほど関わることのない方からの一般的な意見を特に参考にさせていただいている。	運営推進会議は、新型コロナ感染状況をみながら、市・地域包括支援センター職員や民生委員の参加により、2か月に1回開催している。書面開催時には、議事録を配布して報告を行うとともに、各委員からの意見を参考に、事業所の運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉課、長寿福祉課とは特に連携を図り、緊急的な受け入れ等にも対応できるようにしている。お互いに催す会議に出席することで、それぞれの現状把握ができるよう心掛けている。	長年にわたり行政との連携が図られていて、運営推進会議議事録の持参時や行政が求める緊急的な入居相談にも対応できる協力関係である。感染症拡大防止にあたり、保健所との連携を図りながら、的確に対応することができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する会議を3か月毎に実施し、職員間で情報共有しながら「身体拘束をしないケア」を実践している。利用者の状態により拘束が必要な場合は、家族・代理人の同意を得て、職員で常に話し合う機会を設けながら対応している。	3か月に1回の身体拘束適正化委員会の開催、年2回の研修会により、身体拘束をしないケアを実践している。管理者は、研修会終了時に復命書の提出により職員の理解度の把握に努め、身体拘束に関する知識の習得に取り組んでいる。	

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	入浴や排せつ介助時の身体観察により、変化を早く発見できるように取り組んでいる。特定の職員に負担やストレスが掛からないよう職員間で助け合い、1対1になり過ぎることのない距離感を保てるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	親族がいない方に関しては、入居前段階より、担当ケアマネと相談し、後見人の必要性の有無を十分に検討している。必要に応じて、市の担当者や包括支援センターにも協力を仰ぐようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接では十分に時間を設け、説明をし、疑問質問に答えるようにしている。加えて、本契約前に、事業所独自の試用期間を設けてから実際に入居していただくことで、利用者本人、家族、代理人の不安を解消できるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前より、利用者本人、家族の意向を聞き取るように心がけている。入居後も電話連絡やLINE連絡を定期的に行うことで、利用者の現状を報告し、家族の意向を確認させていただいている。	管理者とケアマネジャーは、利用料金支払い等の訪問時には積極的に声掛けを行い、利用者の様子を紹介するとともに、家族からの要望等を聞き取り、事業所の運営に反映している。面会・電話の他、LINEを活用するなど、家族との連絡手段を増やしている。	多角的に家族からの意見の聞き取りを図っていますが、直接意見を聴く機会は減少しています。家族の意見は事業所運営にとって重要であるため、意見聴取の方法として「家族満足度アンケート」の実施など積極的な働き掛けの検討を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングではユニットごとの隔たりなく全職員が関わり、常に相談対応できる環境作りを行っている。個人面談や懇親会を設定し職員や管理者間で話しやすい場を作っている。また世間話といったあらゆるところで声を挙げられるような雰囲気づくりを心掛けている。	管理者は、職員が意見や提案しやすい環境作りを心掛け、グループLINEの活用や懇親会を実施して、ユニットの隔たりのないコミュニケーションに尽力している。令和4年度からはキャリアパス制度を導入して、年2回の人事考課に活用する仕組みを整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用形態や勤務時間、給与等々、業務の様子を見て、適宜声かけをしている。又、代表者のみを窓口とせず、雇用全般に関しては別の役員に相談できるようにもしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の自己評価表を基に職員の意見を取り入れ、外部研修への参加の促進や、内部研修の計画を立てている。また、サービス担当者会議を通じて通常介護の方法等を検討する機会を設けている。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議を通じて他事業所と情報交換を行っている。 又、他事業所が開催する研修にも積極的に参加するようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がリラックスして話すことのできる雰囲気を作り、世間話など色々な話の中から情報収集をするよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から、本人、家族の要望や意向、情報を細かく聞き取り、可能なこと、不可能なことはしっかりと伝えるようにしている。また、本人や家族に関して注意事項があれば事前にケアマネジャーと情報共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りをした情報や課題から利用者にとって有益な選択肢を別のサービスを含め具体的に提示するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中で語り合い、共同作業をし、共に多くの時間を過ごすことにより、時に友人であり、親子でありといった関係性を築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人の要望等を聞きながら、家族にしかできないことに関しては、こちらからこまめに声かけをして、可能であれば家族に協力を仰ぐようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍により外出制限をしているが、家族の協力を得ながら、継続を支援している。 又、家族の協力を得て、冠婚葬祭の場へ赴いたり、本人が望む場へ同行をお願いしている。	コロナ禍の折り、馴染みの人や場との交流は制限されているが、家族の協力を得ながら冠婚葬祭への出席など、利用者個々の希望に合わせた支援に努めている。制限解除を見据えて、訪問ボランティア(ハーモニカ演奏)の復活についても調整している。	

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者毎の性格や相性を考慮し席の配置をしている。又、間に入り会話を促すことや、衝突を防ぐようなフォローをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、利用者が不安なく生活できているかを、家族や担当職員に確認し、必要であれば情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの機会を多くとり、会話の中で自然と出てくる希望や意向を拾い上げるよう心掛けている。 言語コミュニケーションが困難な利用者に関しては、表情を主とする感情を汲み取るようにしている。	入居希望者にはお試し入居(1週間程度)を行い、入居前の本人の生活習慣や意向・要望について観察しながら情報を整理して、入居後も継続した生活ができるように支援している。家族や友人からの情報も集めて、反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のみならず、家族や友人、関連専門職の方々から様々な情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者と職員が接する機会を多く設けることにより、その利用者の現状把握と変化に気づけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント要約表や業務連絡ノートを活用しながら、全職員が全利用者の情報共有し、現状に合う介護計画作成に努めている。	全職員が全利用者の情報を共有し、連絡ノート、支援日誌やADL状況表により利用者の情報を報告している。事業所はケアマネジャー2名(1人は看護師資格取得)体制を整え、職員から得た情報を整理し、協働して介護計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個票や連絡ノートを用い、利用者の変化や、それに対する職員の対応等を情報として挙げ、それをもとにケアプランの評価、見直しを行っている。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	発生したニーズに迅速に対応することを大切にし、様々な選択肢を提案することや、協力関係機関からもアドバイスを得ることで、介護保険の枠に固執することなく、当事業所において可能な限りの支援を行うよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、友人、民生委員、ボランティア、警察、消防といった機関に施設の情報発信することで、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	初期の受診で、家族にも同伴を依頼し、医師、利用者、家族で希望や意向の確認をしている。その後も、主治医と密に連絡を取り、情報を適切に伝達することや、主治医と利用者、家族の間に入り、スムーズな意思の共有が成されるよう支援している。	事業所常勤看護師(ケアマネジャー)により、細かな変化を見逃さずに主治医との情報共有及び医療連携ができています。主治医への通院(1~2回/月)は外出支援ととらえて職員が送迎を行い、他科受診は、家族の協力を得ながら、受診情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が介護職員と同じく現場に入っているため、情報の共有や医療的な指示、アドバイスがスムーズに伝わるため、日常の細かな変化から適切な受診へ繋がられるような支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入退院をする際、医療関係者に適切な情報を伝達できるよう施設看護師が中心となり、協働関係を築く支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より利用者や家族に重度化・終末期に陥った際のことを想定して頂き、当事業所において可能な対応を説明し、主治医と常に情報を共有することで、希望された支援ができるよう取り組んでいる。また、看取りの意向確認書を用いて、家族の意向を家族自身が客観的に整理できるようにしている。看護師による職員研修を行い、看護師と職員が協力しながら支援できる体制作りを心掛けている。	「重度化した場合(看取り)指針」を整備し、入居時に事業所の対応を説明して、利用者・家族の意向を確認している。重度化した際には「看取りの意向確認書」にて、再度家族の意向を確認している。看護師による職員研修を行い、看護師と職員が協力して意向に沿った支援ができる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初期対応として、応急処置や連絡手順等を確認し、実践に備えている。加えて、役員のうち必ず1名は常に連絡が取れるような体制を整えている。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練にて通報、初期消火、避難訓練を行い、各職員が対応できるように取り組んでいる。 又、管理者が現役消防団員であり、日頃より情報収集を行っている。	年2回の防災訓練を実施し、管理者が消防団員である利点を活かして近隣住民との協力体制を築いている。備蓄品は、備蓄倉庫を設けて5日～7日分を目途に米・水などの食料を確保している。停電対応として、発電機・ソーラーパネルを備えている。	防災訓練の際の課題は、次回訓練への継続が重要なことから、課題が継続される訓練の実践を期待します。現在の近隣住民との協力関係は、令和5年度末までに災害時業務継続計画(BCP)に記載し、地域住民と連携した計画策定を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護について、入居時に家族の同意を得ている。利用者一人ひとりの個別性を重視し、その時々状況に即した対応を心掛けている。	個人情報保護・写真掲載等について、入居時に利用者・家族の同意を得ている。管理者は、職員が常に意識した対応ができるように、職員研修等を活用し、都度注意しながら、利用者個々の尊厳に配慮した対応に注力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員が接する中で、会話が可能な場合はOQとCQを使い分けて意向を聞き取るようにしている。 そうでない場合も、様子や表情等から意向を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、各利用者のペースに配慮し、予定が組まれていたとしても変更可能なものに関しては対応するよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを把握し、清潔感や衛生面を考慮した上で、身だしなみやおしゃれを楽しむことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養面を考慮することは元より、地産地消の地元食材を活用した食事を提供している。お正月は甘酒を飲んだり、季節や利用者の好みに合わせたメニュー作りを心掛けている。準備、片付けに関しては、台拭きや下膳ができる利用者には、自身の役割としてお願いをしている。	地産地消の地元食材を活用して、美味しい食事を提供している。季節行事や利用者の好みに合わせたメニュー作りを心掛けている。利用者自身の役割として、準備・片付けを職員と共にし、利用者の能力に合わせた支援を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼夕の三食、おやつ、それ以外の定時での水分摂取等、食事と水分の摂取量に気を付けている。また、摂取量を記録として残し、能力に応じた食事形態を考慮している。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥防止・清潔保持のため、利用者の口腔状態に応じ歯ブラシ以外の洗浄方法や、義歯の週2回の洗浄、夜間預かり等の支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「個室」「排便シート」を活用し、利用者個々のトイレ誘導を心掛けている。夜間は、安全面からポータブルトイレの利用者もいるが、できる限りトイレを利用できるように、排泄自立を支援している。	「個室」「排便シート」を活用し、利用者個々の状態に合わせたトイレ誘導を心掛けている。夜間は、安全面からポータブルトイレの利用者も、できる限りトイレ利用を促し、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活・食事を軸に、体操や散歩を取り入れ、適切な排便を促している。排便の記録を取り、医師と相談の上、必要に応じて薬を用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を目途に利用者の状態や希望、気温を踏まえて、浴槽とミスト浴を使い分け、楽しみごとと清潔保持のために支援をしている。季節に応じて入浴剤を変え、香りを楽しむ工夫をしている。	週2回を目途に、利用者の気分や体調を見ながら、朝から夕方まで入浴時間を決めず、入浴を支援している。入浴剤を利用して、保湿・香り・温泉気分を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身の状態を勘案し、睡眠や休息ができるよう支援している。日中でも、高齢で体力的に厳しい方や、体調の悪い方は、その時の判断で休む時間を長くともっている。居間にある畳スペースにて、簡単に昼寝ができる工夫もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り、正しく服薬できるよう細心の注意を払っている。観察する中で、副作用の影響が疑われる場合には、即座に看護師・医師に確認をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力を見ながら、体力維持を兼ねてモップ掛けをして頂いたり、お皿拭きをお願いすることもある。そこで必ず「ありがとう」と労うことで、作業された利用者は、ただ介護されているという立場でなく、やりがいを感じられるよう支援している。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な近隣の散歩と外気浴を楽しんでいる。コロナ禍で外食は難しいため、施設庭でバーベキュー等を開催して外食支援を行った。個別での外出に関しては、施設で対応ができない場合は、家族に協力を要請している。	近隣の散歩や庭を利用した外気浴を日常的に実施している。コロナ禍により外食ができないため、施設庭でのバーベキュー実施など、事業所内の行事を工夫して、外食気分を楽しんでいる。家族の協力を得ながら、利用者の希望に合わせた外出支援を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭(貴重品)所持は、利用者、家族の希望に応じ、紛失、誤飲等のリスクを説明した上で了承して頂いた場合に、管理していけるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、電話の取り次ぎや、手紙の作成を見守り、投函するなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは毎朝利用者と職員で掃除を欠かさず行い、清潔で心地よく暮らせる工夫している。利用者の心身状態を配慮し、音・光等を自然に近いものにしていく。また、コロナウイルス、インフルエンザ等の対策として、手すり等の拭き取りや、冬でも日に数回は換気をしている。	2ユニットが平屋のため、隔てなく往来ができる。共有スペースには、大漁旗やランドセル・子どもの書初めが飾られ、自宅で過ごす雰囲気作りを大切にしている。感染症対策として、保健所の指導の下、午前・午後と食事時毎の手指消毒やフロアの手すり消毒、常時換気を実践している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を広く取り、畳コーナーや散歩廊下を設け、時には賑やかに時には人の気配を間近に感じながら安心して過ごせる工夫をしている。 又、気の合う利用者同士は比較的近くにすよう席の配置を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや室温に配慮し、家族との相談し、安全を第一とした上で、利用者の持ち込んだ品(家具・写真)をできるだけ使い、居室にて心地良く過ごせる工夫している。	居室は、造り付けのクローゼットがあり、ベッド・家具、仏壇や好みの椅子などを持ち込み、利用者好みの居室作りを支援している。利用者の能力や状態に合わせて、家具の配置や手すりを設置し、心地よく安全な居室作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者の能力に応じて居室配置を決めたり、共用部分に看板を用いて理解のしやすい工夫している。また単独での歩行が不安定な方でも手すりを活用して歩行が可能となるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270300599		
法人名	有限会社 源氏		
事業所名	グループホーム 源氏庵		
所在地	静岡県伊豆の国市四日町346-2		
自己評価作成日	令和5年1月6日	評価結果市町村受理日	令和5年4月14日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270300599-00&ServiceCd=320&Type=search		

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年2月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自然に自分らしく共に生きよう源氏庵」という理念の下に、この地域で暮らされてきた利用者が送られてきた生活を極力維持できるようサポートしていくことに力を入れている。すべてのスタッフがやりがいを感じながら働けるよう、役員が率先してコミュニケーションをとるようにし、結果として勤続10年近いスタッフが多数、開所当時からスタッフも所属している。スタッフが安定していることで、利用者本人、家族に対しての安心感に繋がると考えている。ホームの食事では地産地消の食材による美味しい食事の提供を心掛けている。ホーム内では看取りを積極的に行っており、医師・看護師との連携を整備している。コロナ禍で面会制限のある中、オンラインの活用や感染予防対策を取った窓越し面会などの対応で、家族との交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示し、連絡ノート・業務連絡ノートを活用して、職員との情報共有を図っている。毎日10時のミーティングを通じて職員間での情報共有を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の中、外出や来訪機会は制限しているが、近所や庭の散歩を楽しみながら、地域と交流できる機会を維持している。また面会や見学、相談等、地域の人々の受け入れをすることで、地域に馴染んでいる存在でいられるよう心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	役所の設ける合議体の一員として参加することで、事業所の有する経験や情報を、役所を通じて間接的に地域へと還元できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催している。そこで得る意見や質問を業務に生かしている。特に普段介護にそれほど関わることのない方からの一般的な意見を特に参考にさせていただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉課、長寿福祉課とは特に連携を図り、緊急的な受け入れ等にも対応できるようにしている。お互いに催す会議に出席することで、それぞれの現状把握ができるよう心掛けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する会議を3か月毎に実施し、職員間で情報共有しながら「身体拘束しないケア」を実践している。利用者の状態により拘束が必要な場合は、家族・代理人の同意を得て、職員で常に話し合う機会を設けながら対応している。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や排せつ介助時の身体観察により、変化を早く発見できるように取り組んでいる。特定の職員に負担やストレスが掛からないよう職員間で助け合い、1対1になり過ぎることのない距離感を保てるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	親族がいない方に関しては、入居前段階より、担当ケアマネと相談し、後見人の必要性の有無を十分に検討している。必要に応じて、市の担当者や包括支援センターにも協力を仰ぐようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接では十分に時間を設け、説明をし、疑問質問に答えるようにしている。加えて、本契約前に、事業所独自の試用期間を設けてから実際に入居していただくことで、利用者本人、家族、代理人の不安を解消できるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前より、利用者本人、家族の意向を聞き取るように心がけている。入居後も電話連絡やLINE連絡を定期的に行うことで、利用者の現状を報告し、家族の意向を確認させていただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングではユニットごとの隔たりなく全職員が関わり、常に相談対応できる環境作りを行っている。個人面談や懇親会を設定し職員や管理者間で話しやすい場を作っている。また世間話といったあらゆるところで声を上げられるような雰囲気づくりを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用形態や勤務時間、給与等々、業務の様子を見て、適宜声かけをしている。又、代表者のみを窓口とせず、雇用全般に関しては別の役員に相談できるようにもしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の自己評価表を基に職員の意見を取り入れ、外部研修への参加の促進や、内部研修の計画を立てている。また、サービス担当者会議を通じて通常介護の方法等を検討する機会を設けている。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議を通じて他事業所と情報交換を行っている。 又、他事業所が開催する研修にも積極的に参加するようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がリラックスして話すことのできる雰囲気を作り、世間話など色々な話の中から情報収集をするよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から、本人、家族の要望や意向、情報を細かく聞き取り、可能なこと、不可能なことはしっかりと伝えるようにしている。 また、本人や家族に関して注意事項があれば事前にケアマネジャーと情報共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りをした情報や課題から利用者にとって有益な選択肢を別のサービスを含め具体的に提示するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中で語り合い、共同作業をし、共に多くの時間を過ごすことにより、時に友人であり、親子でありといった関係性を築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人の要望等を聞きながら、家族にしかできないことに関しては、こちらからこまめに声かけをして、可能であれば家族に協力を仰ぐようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍により外出制限をしているが、家族の協力を得ながら、継続を支援している。 又、家族の協力を得て、冠婚葬祭の場へ赴いたり、本人が望む場へ同行をお願いしている。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者毎の性格や相性を考慮し席の配置をしている。又、間に入り会話を促すことや、衝突を防ぐようなフォローをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、利用者が不安なく生活できているかを、家族や担当職員に確認し、必要であれば情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの機会を多くとり、会話の中で自然と出てくる希望や意向を拾い上げるよう心掛けている。 言語コミュニケーションが困難な利用者に関しては、表情を主とする感情を汲み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のみならず、家族や友人、関連専門職の方々から様々な情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者と職員が接する機会を多く設けることにより、その利用者の現状把握と変化に気づけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント要約表や業務連絡ノートを活用しながら、全職員が全利用者の情報共有し、現状に合う介護計画作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個票や連絡ノートを用い、利用者の変化や、それに対する職員の対応等を情報として挙げ、それをもとにケアプランの評価、見直しを行っている。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	発生したニーズに迅速に対応することを大切にし、様々な選択肢を提案することや、協力関係機関からもアドバイスを得ることで、介護保険の枠に固執することなく、当事業所において可能な限りの支援を行うよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、友人、民生委員、ボランティア、警察、消防といった機関に施設の情報を発信することで、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	初期の受診で、家族にも同伴を依頼し、医師、利用者、家族で希望や意向の確認をしている。その後も、主治医と密に連絡をとり、情報を適切に伝達することや、主治医と利用者、家族の間に入り、スムーズな意思の共有が成されるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が介護職員と同じく現場に入っているため、情報の共有や医療的な指示、アドバイスがスムーズに伝わるため、日常の細かな変化から適切な受診へ繋がられるような支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入退院をする際、医療関係者に適切な情報を伝達できるよう施設看護師が中心となり、協働関係を築く支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より利用者や家族に重度化・終末期になられた際のことを想定して頂き、当事業所において可能な対応を説明し、主治医と常に情報を共有することで、希望された支援ができるよう取り組んでいる。また、看取りの意向確認書を用いて、家族の意向を家族自身が客観的に整理できるようにしている。看護師による職員研修を行い、看護師と職員が協力しながら支援できる体制作りを心掛けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初期対応として、応急処置や連絡手順等を確認し、実践に備えている。加えて、役員のうち必ず1名は常に連絡が取れるような体制を整えている。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練にて通報、初期消火、避難訓練を行い、各職員が対応できるように取り組んでいる。 又、管理者が現役消防団員であり、日頃より情報収集を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護について、入居時に家族の同意を得ている。利用者一人ひとりの個別性を重視し、その時々状況に即した対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員が接する中で、会話が可能な場合はOQとCQを使い分けて意向を聞き取るようにしている。 そうでない場合も、様子や表情等から意向を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、各利用者のペースに配慮し、予定が組まれていたとしても変更可能なものに関しては対応するよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを把握し、清潔感や衛生面を考慮した上で、身だしなみやおしゃれを楽しむことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養面を考慮することは元より、地産地消の地元食材を活用した食事を提供している。お正月は甘酒を飲んだり、季節や利用者の好みに合わせたメニュー作りを心掛けている。 準備、片付けに関しては、台拭きや下膳ができる利用者には、自身の役割としてお願いをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼夕の三食、おやつ、それ以外の定時での水分摂取等、食事と水分の摂取量に気を付けている。また、摂取量を記録として残し、能力に応じた食事形態を考慮している。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥防止・清潔保持のため、利用者の口腔状態に応じ歯ブラシ以外の洗浄方法や、義歯の週2回の洗浄、夜間預かり等の支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「個室」「排便シート」を活用し、利用者個々のトイレ誘導を心掛けている。夜間は、安全面からポータブルトイレの利用者もいるが、できる限りトイレを利用できるように、排泄自立を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活・食事を軸に、体操や散歩を取り入れ、適切な排便を促している。排便の記録を取り、医師と相談の上、必要に応じて薬を用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を目途利用者の状態や希望、気温を踏まえて、浴槽とミスト浴を使い分け、楽しみごとと清潔保持のために支援をしている。季節に応じて入浴剤を変え、香りを楽しむ工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身の状態を勘案し、睡眠や休息ができるよう支援している。日中でも、高齢で体力的に厳しい方や、体調の悪い方は、その時の判断で休む時間を長くともっている。居間にある畳スペースにて、簡単に昼寝ができる工夫もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り、正しく服薬できるよう細心の注意を払っている。観察する中で、副作用の影響が疑われる場合には、即座に看護師・医師に確認をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力を見ながら、体力維持を兼ねてモップ掛けをして頂いたり、お皿拭きをお願いすることもある。 そこで必ず「ありがとう」と言うことで、作業された利用者は、ただ介護されているという立場でなく、やりがいを感じられるよう支援している。		

静岡県(グループホーム源氏庵)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な近隣の散歩と外気浴を楽しんでいる。コロナ禍で外食は難しいため、施設庭でバーベキュー等を開催して外食支援を行った。個別での外出に関しては、施設で対応ができない場合は、家族に協力を要請している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭(貴重品)所持は、利用者、家族の希望に応じ、紛失、誤飲等のリスクを説明した上で了承して頂いた場合に、管理していけるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、電話の取り次ぎや、手紙の作成を見守り、投函するなどの支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは毎朝利用者と職員で掃除を欠かさず行い、清潔で心地よく暮らせる工夫している。利用者の心身状態を配慮し、音・光等を自然に近いものになっている。 また、コロナウイルス、インフルエンザ等の対策として、手すり等の拭き取りや、冬でも日に数回は換気をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を広く取り、宣コーナーや散歩廊下を設け、時には賑やかに時には人の気配を間近に感じながら安心して過ごせる工夫をしている。 又、気の合う利用者同士は比較的近くにすよう席の配置を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや室温に配慮し、家族との相談し、安全を第一とした上で、利用者の持ち込んだ品(家具・写真)をできるだけ使い、居室にて心地良く過ごせる工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者の能力に応じて居室配置を決めたり、共用部分に看板を用いて理解のしやすい工夫している。また単独での歩行が不安定な方でも手すりを用いて歩行が可能となるよう配慮している。		